

- 第9期計画の推進に当たっては、官民の垣根を越えた「共創」による地域の課題解決や価値向上の取組に重点。
- 計画初年度(令和6年度): 開発建設部に地域連携課を立ち上げ、組織体制を整備。各地でキックオフイベントを開催し、第9期計画をPRするとともに、道民・各自治体・産学とも連携した地域との「共創」の取組に着手。

計画初年度(令和6年度)の取組ポイント

- 10開発建設部に地域連携課を立ち上げ、共創に向けた体制を構築、活動開始
 - 開発計画の推進を主たる目的とした組織を開発建設部レベルに設置したのは初めて。
 - 官民共創の取組に当たり、地域の関係者間の触媒として働くことを期待。
- 全道各地でのキックオフイベントの開催等による第9期計画の周知
 - 札幌を含め全道11か所で順次開催(全道規模で開催したのは初めて)。
 - 第9期計画の理解と浸透、計画推進の機運醸成のみならず、若い世代を含めた地域づくりへの関心惹起を図った。
- 6圏域毎に地域づくりの方向性を示す「地域づくり推進ビジョン」を策定

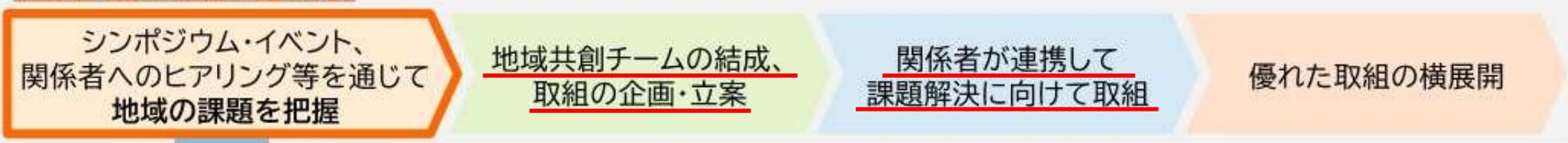


- 所掌事務: 北海道総合開発計画の推進に関する事務
- 地域づくり連携会議等に係る関係機関等との連絡調整
 - 官民共創による地域の課題解決や価値向上の取組の推進
 - 北海道総合開発計画に係る調査、情報収集及び地域への情報発信
 - 北海道総合開発計画の広報・広聴 等



- 開発建設部地域連携課では、把握された地域の課題の解決に向けて、個々の課題に応じた取組体制（地域共創チーム）の結成、関係者の連携を通じた課題解決の取組を推進。

《官民共創の取組の進め方》



《把握された課題の例》

若者の流出等による担い手不足

- 地元就職・定着する若者の不足
- Uターン等の推進
- 一時的・短期的な担い手の確保 等

《取組の方向性のイメージ例》

- 関係業界と連携したインターンシップの試行
- 繁閑期の異なる複数産業（例：建設業と観光業）間の連携
- アプリを活用した短期労働力のマッチング 等

地域の実情・ニーズに即して優先順位付け
→関係者と地域共創チームを結成して取組を展開

《その他の課題の例》

安全・安心な暮らしの確保

- 都市部：バス路線の維持
- 地方部：地域住民の足の確保
- 「道の駅」の観光拠点・防災拠点としての活用 等

観光・農林水産業の振興

- 新たな観光資源の発掘（縄文遺跡、日本遺産「炭鉄港」、ガストロノミー等）
- 市町村界を越えた広域的な観光連携（サイクリング、ジオパーク等）
- スマート農業の推進、食と観光との連携 等

宗谷地域に関する高校生アンケート調査 【稚内開発建設部実施】

Q. 進学や就職などで一時的に地元を離れたとしても、いずれは地元に戻ってきたいと思いませんか？



※宗谷管内の高校生全員（1,143名）に対し令和6年度実施。
※7割が宗谷管外での進学・就職を検討中。

地元に戻って来る意欲のある若者は
少なくない

- 「地域づくり連携会議」は、国、道、市町村など、地域の多様な主体と意見交換を行い、地域づくりの方向を検討、共有し、連携・協働の取組を推進することを目的に設置
- 令和7年8月に上川北部・中部、南部で会議を開催し、国・道の施策推進状況を説明するとともに、各市町村長から「上川地域のポテンシャルを活かした持続的な発展に向けて」をテーマに発言頂き、意見交換を実施した
- 剣淵町長からは、「農産物・農業ブランド化」への取組、代表例として8年の歳月をかけて「キヌア」の製品化に成功し、現在はイオンなどの店舗とタイアップして商品化されている旨の発言

上川地域づくり連携会議（上川北部ブロック）

開催日時：令和7年8月20日

開催方法：対面

議題：(1) 道北連携地域「地域づくり推奨ビジョン」及び道北連携地域政策展開方針の推進状況
(2) 意見交換「上川地域のポテンシャルを活かした持続的な発展に向けて」



【剣淵町長※発言抜粋】

- ・国の人口が、将来、8000万人あるいは7000万人へ減少するという見方もあり、人口減少が不可避の中、剣淵町でもその影響を強く感じております。
- ・当町の基幹産業は農業ですが、当町に開設されている人材派遣会社の支店によると、今秋の収穫期には300名ほどの都市部からの派遣者を見込んでおり、当町を含む需要のある地域へ順次配置する予定と聞いております。
- ・しかし、当町では居住先の提供は難しく、自身で探していただく必要があるとお伝えしました。ただ、空き家をシェアハウスとして利用するなど、柔軟な生活スタイルを選ぶ若者が増えているとのことです。町としては、町内外の宿泊可能な施設等を活用する方々に対し、できる限りのサポートを行っている状況です。
- ・また、当町では「農産物・農業のブランド化」に取り組んでいます。代表例として、8年の歳月をかけて「キヌア」の製品化に成功し、現在はイオンなどの店舗とタイアップして商品化されています。

【旭川開発建設部長※発言抜粋】

- ・各自治体の皆様より、具体的な取組みについて様々なお話をいただき、誠にありがとうございます。
- ・第9期北海道総合開発計画において、重要な柱として位置づけているのが、北海道における食料供給力の持続的な確保、そして、その供給を担う生産空間の維持です。北海道の産業構造は地域農業が主体となっておりますが、これまでのように食料を輸入に依存するのではなく、国内での生産を見直す必要性が、昨今の国際情勢を踏まえて一層高まっていると感じています。
- ・今般の米不足の問題は、米の輸出に関する議論が継続されている一方で、まずは国内での安定的な生産・供給体制を整えていく必要性を、改めて国民に強く印象づけたものと捉えています。
- ・そのような中、本会議では、キヌアやアマニなど上川北部地域における特色のある農産品の生産が紹介されました。これらの作物が地域の発展の鍵となる可能性があると考えており、今後も注目していきたいと思っております。

▼道北地域づくり通信(現在約400名の方が登録)

////////////////////////////////////

道北地域づくり通信 <第18号>

～共に創る、道北の未来～

////////////////////////////////////

※本メールは、これまでに名刺交換させて頂いた方、道北地域づくりワークショップ・交流会にご参加いただいた方、道北地域づくり共創応援企業・団体のみなさまに BCC 送信しています
※各関係者様に情報展開して頂きますと幸いです

みなさま、こんにちは
道北地域づくり通信事務局の 旭川開発建設部 地域連携課です。

今回お届けする内容は、

1. 『けんぶち産キヌア』のご紹介
 2. デジタルスタンプラリー『ジオクエスト』のご案内
- です。

1. 『けんぶち産キヌア』のご紹介

剣淵町では、栄養価の高さから"スーパーフード"として注目される「キヌア」の安心・安全な国内生産が進められています！
「けんぶち産キヌア」は、独特の苦み成分であるサポニンが洗浄処理されているため、家庭で洗う必要がなく、そのまま調理することができます。

剣淵商工会（けんぶち産キヌア推進委員会）が発行している別添チラシではキヌアの栄養素や剣淵町とキヌアのストーリーなどが記載されておりますのでぜひご覧ください。

また、けんぶち VIVA マルシェでは、キヌアの食べ方やどのように日常の食卓に取り入れているのかなど、キヌアの魅力を発信する"けんぶち産キヌアアンバサダー"が募集されています。

「けんぶち産キヌア」にご興味のある方はぜひご確認ください！

▼道北地域づくり共創 応援企業・団体の募集の取組

「道北地域づくり共創 応援企業・団体」を募集！！

地域の皆さんと共に創った
「道北地域づくりアクションプラン」

この官民の垣根を越えた「共創」の取組に
支援、応援、協力等、
様々な形で連携いただける
「道北地域づくり共創応援企業・団体」を
募集しています



「道北地域づくり
アクションプラン」の
一覧はこちら→

企業や団体と地域をマッチング！

～情報収集をしながら支援内容をご検討ください～

登録のメリット

企業や団体に
共創の取組の **情報発信** や
地域の活動とのマッチング 等を行います



登録された **企業・団体名**、
取組のサポート や **連携の実績** を
旭川開発建設部のホームページで
ご紹介します



申請方法

制度の詳細及び登録要領等は
右記QRコードからご覧いただけます



詳細は
こちら



お問い合わせ 北海道開発局 旭川開発建設部 地域連携課
☎0166-32-3079 ✉hkhd-as-chiikirenkei@ki.mlit.go.jp

共創の未来を創る
第1期北海道総合開発計画

【日時】 R7.11.12(水)14:00-15:30

【場所】 釧路商工会 会議室

【参加企業、団体等】

- ・けんぶち産キヌア推進委員会
- ・株式会社けんぶちVIVAマルシェ
- ・釧路町役場農林課
- ・旭川開発建設部地域連携課
- ・公益財団法人はまなす財団
- ・株式会社 旭ダンケ(応援企業団体)
- ・株式会社 アサヒ建設コンサルタント(応援企業団体)
- ・ノースコネクション株式会社(応援企業団体)
- ・明治安田生命保険相互会社旭川支社名寄営業所(応援企業団体)

【次第】

- ・旭川開発建設部における地域連携・共創の取組(旭川開発建設部)
- ・キヌア栽培の経緯と現状(けんぶち産キヌア推進委員会)
- ・意見交換(参加した各企業・団体から発言)

【株式会社けんぶちVIVAマルシェ】以下、主な発言を抜粋

- ・釧路町はペルーと姉妹都市提携をしており、ペルーが原産地であるキヌアを街おこしに利用できないかチャレンジを開始、8年間かけてようやく販売までたどり着いた
- ・目標はキヌアを全国に広げ、農業者の新しい所得アイテムとし、国内生産体制を築き市場を創ること。町内にキヌアセンターを建設し、生産・調整・販売までを一貫して町内で実施できるようにした。
- ・最大の課題はキヌアの知名度。知っている人は購入するが知らない人が多い。価値やストーリー、美味しくて体に良い部分がわかれば。PR活動として、「町内無償配布」「学校給食等への活用」「商品開発や各種コラボレーション」「パッケージへの工夫(化粧品をイメージした女性が手に取りやすいデザイン)」等を行っている。



【けんぶち産キヌア推進委員会】以下、主な発言を抜粋

・「けんぶち産キヌア」として地域団体商標を申請中。栽培や地域団体商標は農協が主導するものが多い中、商工会が主体となり推進委員会を設置し進めるのは北海道内で初めての事例。

【株式会社 旭ダンケ(応援企業団体)】以下、主な発言を抜粋

- ・VIVAマルシェの立ち上げストーリーに感銘を受けており、何かの形で関わりたいという思いがある。
- ・グループ企業(スキー場、ガソリンスタンド等)や従業員及びその家族への情報発信、PR、HPへのリンク掲載等で協力したい。

【アサヒ建設コンサルタント(応援企業団体)】以下、主な発言を抜粋

- ・今回の取組を通じて「けんぶち産キヌア」を知り、現在は自身でも購入している。従業員や関係者、お客様への手土産、HPへのリンクなどPR支援を検討。
- ・スーパーフードという側面に着目し、フィットネスジムや健康志向の人が集まる場所でのPRなどを検討してはどうか。

【ノースコネクション株式会社(応援企業団体)】以下、主な発言を抜粋

- ・旭川市で女性活躍推進のイベントを毎年開催しており、キヌアブースの設置やステージイベントでのPR等に場の提供を行うことが可能
- ・ペット(愛犬)に食べさせる目的でキヌアを知った。ペットフード等の商品開発が愛犬家層に響くのではないかと。
- ・各地にアンバサダー(店舗等)を置き、地域の管理・配布等を行う仕組みを検討してはどうか。
- ・「かけるだけ」という手軽さを利用してもらうため、定期配送、サブスクのような仕組みの検討や、SNSの活用により特定の層や料理方法も含めた配信も考えられるのではないかと。

【明治安田生命保険相互会社名寄営業所(応援企業団体)】以下、主な発言を抜粋

- ・「みんなの健活プロジェクト」と「地元元気プロジェクト」を全社で推進しており、釧路町とは2022年6月に連携協定を締結している。
- ・個人、法人顧客へのPR、町主催のドッグランイベントなどで血管年齢測定会等のミニイベントを実施する際、キヌアのPRやサンプル配布を行いたい。



●イオン旭川西店では、「けんぶち産キヌア」を販売している食品売場のデジタルサイネージで「けんぶち産キヌア」を紹介（PR）する取組を実施（R8.2～）※PRは道北地域づくり応援企業・団体の取組として実施

▼イオン旭川西店けんぶち産キヌア売場



▼イオン旭川西店デジタルサイネージを活用したPR

